

病気と向き合う体験者の ウェブサイト

JPOP-VOICEの語り
の特徴と看護学教育
への活用可能性

孫波（和光大学大学院）
いとうたけひこ（和光大学）
大高庸平（和光大学大学院）
城丸瑞恵（昭和大学）
小平朋江（聖隷クリストファー大学）

日本看護学教育学会 第20回学術集会
大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
第4会場(会議室1003) P-152（示説）
2010年8月1日13：10～13：50

【はじめに】JPOP-VOICEとは

最近患者主体の医療が注目されている。患者が病気と闘った手記もますます増えている。中でも闘病に関するウェブサイトがIT技術の発展に伴い増加している、文章だけでなく動画情報として視聴できる時代になって来ている。そのようななかでがん患者の体験者の語りと統合失調症の当事者の語りを掲載した。ウェブサイトJPOP-VOICEが2004年に

句読点の付け方を確認してください。

語りを計挿したウェブサイト...では？

法人パブリックヘルス（PHRF）が「生活習慣病」および「疫学研究・臨床試験研究」に対する人々の意識向上をはかることを目的に、2004年に開始した。このウェブサイトは、

全体的に文字サイズが小さいと思います。

JPOP-VOICEは、集めた体験者の声、出版された専門家のコラム、患者に向けた記事、など、正しい情報を提供している。

JPOP-VOICEはその事業のひとつとして、病気の体験者やそのご家族、そして医療従事者の方の思いを動画で紹介するウェブサイトである。

体験者、医療者からのメッセージ

このサイトをご覧になる方へ | JPOPとは | お問い合わせ

JPOP-VOICE

サイト内検索 検索 Powered by Google

がんと向き合う | 統合失調症と向き合う

がんと向き合う

体験者、医療者、支援者の声を動画でご紹介します。

VOICE 体験者・医療者・支援者の声

大腸がん (17) NEW	▶	肺癌 (3)	▶
膵臓がん (1)	▶	乳がん (7)	▶
子宮頸がん (1)	▶	卵巣がん (1)	▶
緩和ケア (7)	▶		

VOICE **+** plus 就労問題 **NEW** ▶

イベント がんに関するイベントのご案内 ▶

お知らせ がんに関する情報とJPOPからのお知らせ ▶

新着情報 **RSS** [新着情報一覧へ](#)

VOICE 2010年5月30日 「抗がん剤治療中の過ごし方」について 癌研有明病院 看護師の横井麻珠美さんにお話しいただきました。 **NEW**

イベント 2010年5月30日 在宅ホスピス協会の「第13回全国大会 in 岐阜」が開催されます。

「JPOP-VOICE がんと向き合う」アンケートにご協力をお願い ▶▶▶
このサイトへのご意見、ご感想をお寄せ下さい

JPOP-VOICEにおける乳がん患者の例 山内梨香さんの闘病経験の紹介

体験者、医療者からのメッセージ

JPOP-VOICE

サイト内検索 検索 Powered by Google

がんと向き合う [トップページへ >>](#)

大腸がん 肺がん 膵臓がん **乳がん** 子宮頸がん 卵巣がん 緩和ケア イベント おしらせ

VOICE 乳がん

▶ 体験者
医療者
支援者



山内 梨香さん ①
(やまうち・りか)
看護師

盛岡市在住。2005年末、32歳のときに乳がんと診断される。手術後、骨と肝臓に転移するも、抗がん剤、放射線治療、ホルモン療法を経て、順調に回復(その後の経過は[こちら](#)をご覧ください)。現在は仕事にも復帰し、看護師として患者さんの身体と心のケアにあたっている。2008年に自らの闘病体験をつづった『**がけっふチナース がんとともに生きる**』が2009年3月に飛鳥新社より新装刊。ブログ：[「生きてる喜び日記」](#)



クリックで動画がスタートします

山内 梨香さん ①
(やまうち・りか)

<< 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 >>

1 石ころのようなしこり

「乳がんになる半年ぐらい前(2004年秋)に、胸の痛みを感じて乳腺外科の先生の所に行ったのですが、そのときはしこりがマンモグラフィではみつからず、『30歳を過ぎるとホルモン(エストロゲン)のせいでも痛くなることもある』と言われて、それで少し様子を見ていました

半年後の春、しこりが“こりっ”とその痛かった場所に来ていたのです。うちの彼がみつけて『何かあるよ』ということで触ってみると、本当に石ころのように硬いしこりが触れ

【目的】

体験者の生の声を聴くことにより、病いの体験の情報を得たり、人間として共感することができる。体験者の生の声は、有用な看護学教材として今後の活用が期待される。本研究の目的は、JPOP-VOICEにおけるがん患者の体験者の語りの構造の解明を通して、その看護教育的資源(小平・いとう, 2010)としての意義を明らかにすることである。

【研究方法】

研究方法として、JPOP-VOICEにおけるがんの体験者のウェブサイトでの語りをText Mining Studio Ver.3.2により、テキストマイニングの手法にて分析をおこなった。分析対象はJPOP-VOICEサイトに収録されている大腸がん8人(男性6人、女性2人)と、乳がん6人(女性6人)の計14人の語りである(2009年10月データ取得)。

テキストマイニングとは、対象となるテキストデータを形態素解析し、単語を変数とみなした量的な分析を行うものである。このソフトウェアは原文参照ができ、量的な分析だけではなく、質的な分析も行える。分析は(1)テキストの基本統計量、(2)単語頻度分析、(3)係り受け頻度分析、(4)特徴語分析を用いた。

【倫理的配慮】

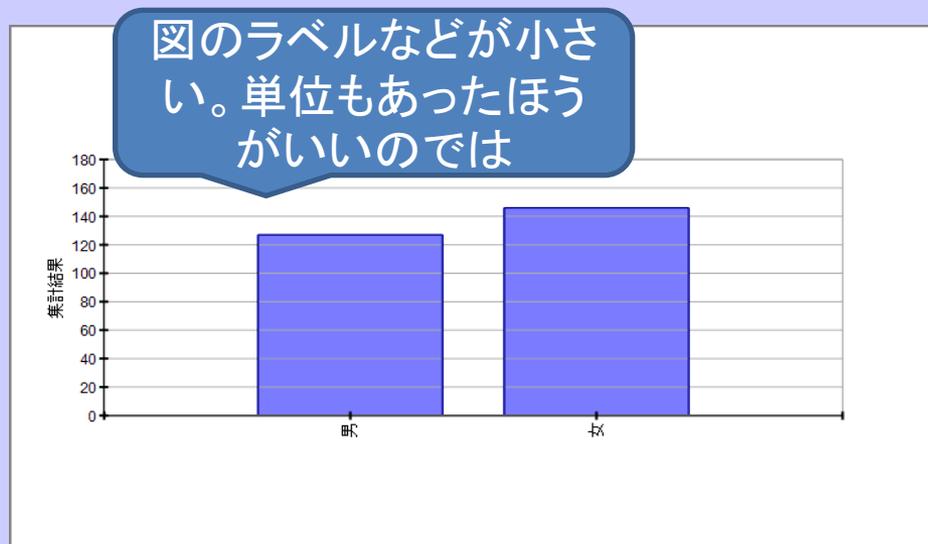
倫理的配慮として、ウェブサイトの著作権を尊重した。

【結果①】 テキストの基本統計量

表1 がん体験者14人のテキスト基本統計量

項目	値
総行数 (話題数)	273
平均行長(文字数)	196.9
総文数	2295
平均文長(文字数)	23.4
述べ単語数	21251
単語種別数	4412

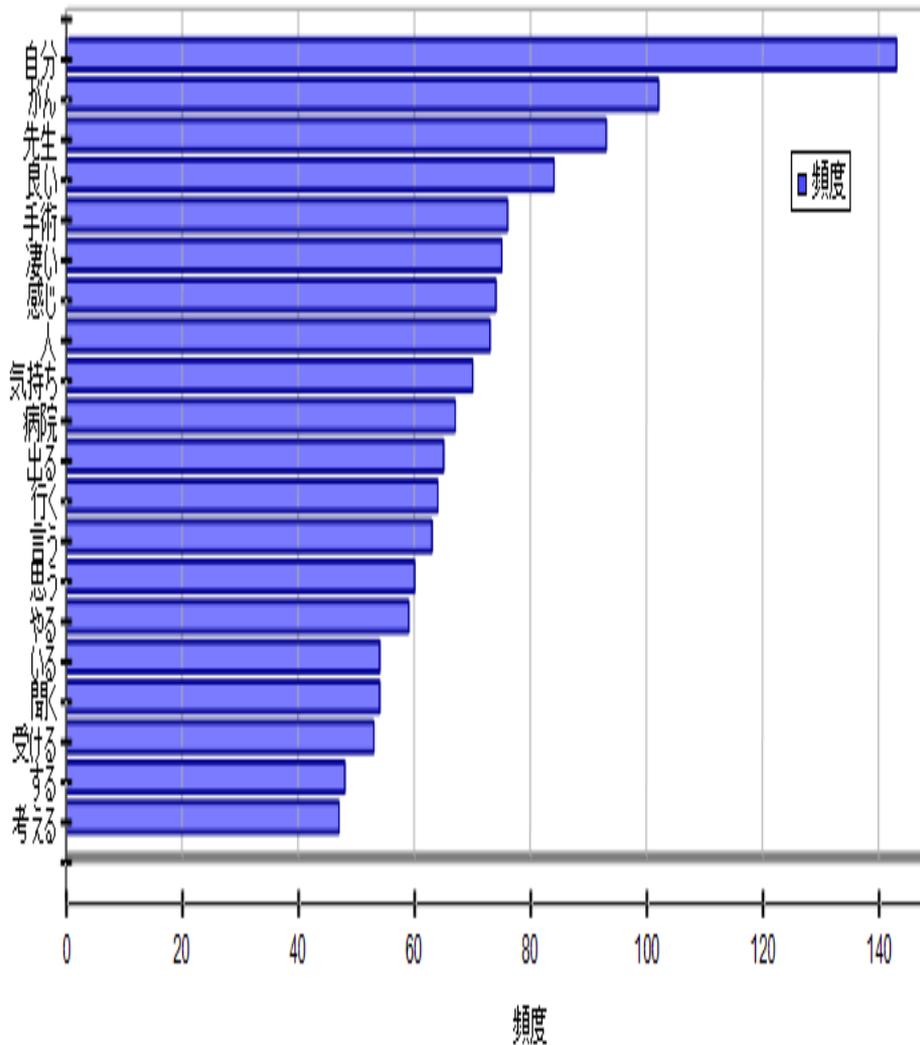
図1 14人体験者の男女別話題数(行数)



データの形式として、患者が語った一つの話題を一行として入力した。テキストの基本統計量は、総行数は273であり(男性は127、女性は146)、平均行長は196.9文字であった。総文数は2,295で、平均文長は23.4文字であった。述べ単語数は21,251であり、単語種別数は4,412であった。

【結果②】 図2

単語頻度分析(上位20件)



- 出現頻度上位20件の単語を図のように示す。順に「自分」、「がん」、「先生」、「良い」、「手術」、「凄い」、「感じ」、「人」、「気持ち」、「病院」、「出る」、「行く」、「言う」、「思う」、「やる」、「いる」、「聞く」、「受ける」、「する」、「考える」などの単語が頻繁に出現した。この14人の患者は「先生」、「手術」、「気持ち」についての単語をよく使われることがわかった。??
- 単語をよく用いていることがわかった・・・ですか？

【結果③】 表2 係り受け頻度分析

係り元単語	係り元品詞	係り先単語	係り先品詞	頻度
病院	名詞	行く	動詞	15
人	名詞	いる	動詞	14
検査	名詞	受ける	動詞	11
手術	名詞	受ける	動詞	10
先生	名詞	言う	動詞	10
先生	名詞	聞く	動詞	9
手術	名詞	終わる	動詞	8
本	名詞	読む	動詞	7
抗がん剤	名詞	やる	動詞	7
次	名詞	行く	動詞	6
話	名詞	聞く	動詞	6
目	名詞	覚める	動詞	6
様子	名詞	みる	動詞	6
薬	名詞	飲む	動詞	6
自分	名詞	納得	名詞	6
がん	名詞	治療	名詞	5
病院	名詞	受ける	動詞	5
気持ち	名詞	悪い	形容詞	5
情報	名詞	集める	動詞	5
先生	名詞	お願い	名詞	5

患者全体の係り受け頻度を抽出してみると、「先生」(医者)という単語が「言う」「聞く」「お願い」などと繋がっている関係が目立った。「自分」と「納得」もよく繋がっている。

係り受け頻度・・・の意味は口答で説明しますか？一般的なイメージがないと思います

【結果④】 表3 特徴語分析

大腸がん(男性6人)				大腸がん(女性2人)				乳がん(女性6人)			
特徴語	属性 頻度	全体 頻度	指標値	特徴語	属性 頻度	全体 頻度	指標値	特徴語	属性 頻度	全体 頻度	指標値
手術	84	144	40.181	がん	32	209	38.631	乳がん	63	66	65.891
人	77	131	37.727	病気	16	70	30.695	痛い	75	114	45.926
話	45	67	30.602	取る	12	38	27.804	痛み	64	90	45.872
器具	23	23	25.703	卵巣	9	9	27.285	痛み	66	101	39.791
検査	48	81	24.111	感じる	11	30	27.082	自分	148	282	38.278
大丈夫	34	50	23.678	原発	9	10	26.955	受ける	56	90	29.813
便	21	21	23.468	余命	9	11	26.626	患者さん	33	42	27.697
保険	26	33	22.792	見る	12	50	23.846	主治医	31	40	25.517
わかる	61	114	20.742	胃	9	23	22.667	看護師	27	33	23.912
切る	25	34	19.884	寝る	9	29	20.688	辛い	27	33	23.912
病院	64	122	19.62	お腹	9	37	18.05	気持ち	57	101	21.725
トイレ	19	21	19.443	腸	8	29	17.327	悪い	34	52	20.526
人工肛門	17	17	18.998	抗がん剤	13	80	17.312	頑張る	22	26	20.3
仕事	42	74	18.301	体験	6	11	16.541	足	19	20	19.784
病気	40	70	17.855	子	6	12	16.211	泣く	20	24	18.121
子供	18	22	16.536	大腸	6	16	14.892	肝臓	20	25	17.203
腸	21	29	16.309	皆さん	6	17	14.562	抗がん剤	45	80	16.91
大腸がん	18	23	15.641	続ける	6	18	14.232	おくすり	15	15	16.344
入る	46	86	15.612	患者会	7	31	13.306	しこり	16	18	15.598
調べる	18	24	14.746	検診	5	11	13.179	嬉しい	15	16	15.426

【結果⑤】 特徴語分析

特徴語分析を行い、性別とがんの種別について、特徴的に出現する単語を抽出した。

特徴語分析によると、男性の大腸がんの患者は「装具」「便」「トイレ」「人工肛門」など、生活上の不具合についての説明が特徴的に多く見られた。また、乳がんの女性については「凄い」という単語をよく使用する現象が見られている(大腸がんの女性は、そうでもなかった)。治療の話題における特徴として、大腸がんの男性は手術に関する話題が多く、乳がんと大腸がんの女性は薬、「抗がん剤」などに関する話題が多かった。

【結果⑥】 図3 対応バブル分析

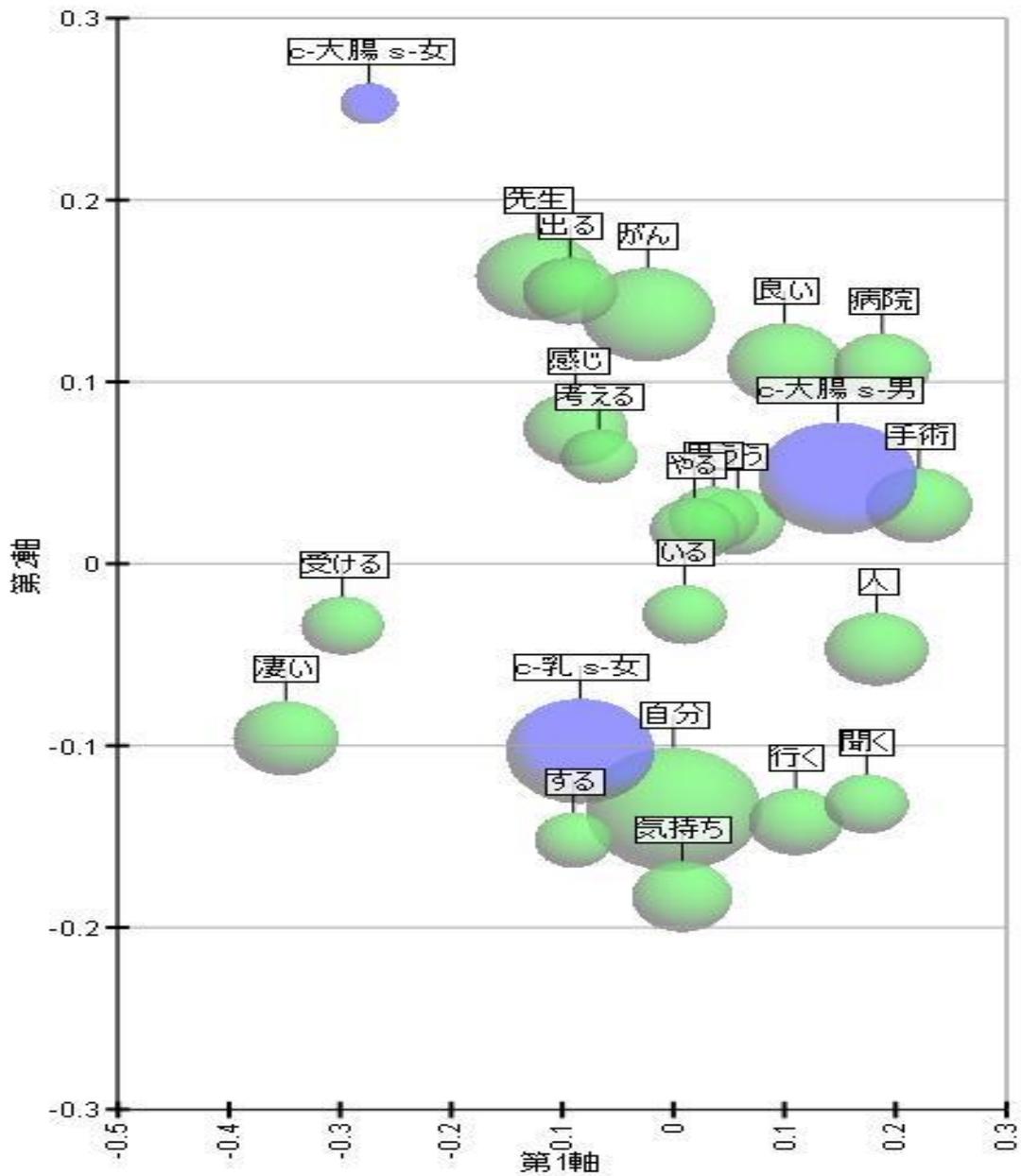


図3は、大腸がんの男女と、乳がんの女性のテキストの中から、属性(がんと性別)と単語の2つの変数について数量化(Ⅲ類)を行った対応バブル分析である。属性と距離の近い単語ほど関係性が強いことを表す。

「手術」は大腸がんにおいて見られ、乳がんでは、「凄」や「気持ち」との関係が強いことが特徴的であった。

【考察①】 結果の要約

(1) 単語頻度分析でも、「先生」が3位になっており、また、係り受けの分析の結果でも、「先生」-「いう」、「先生」-「聞く」、「先生」-「お願い」という関連が目立った。がん患者では担当医との関係の重要さが明らかになった。

(2) 大腸がんには、手術後の生活の質を低める生活上の不具合についての記述が目立った。

(3) 病気の治療に関しては処置の結果から来る問題に関わる言葉が多い現象が見られた。一方、女性は家族や「患者会」など人間関係に関する話が多かった。病気の治療に関しても、薬や抗がん剤等が多かった。

【考察②】 先行研究との比較

(1) 孫・いとう・大高・小平(2010)との比較

孫ほか(2010)はJPOP-VOICEの統合失調症6人とがん20人の語りを比較している。統合失調症の当事者の語りは、服薬、障害者手帳を持つ、地域で生きていく、人や仲間との関係、妄想・聴の症状、仕事の継続、などが特徴的な語りであり、担当医をあらわす「先生」という単語は目立たなかった。本研究では(**の結果から**)がん患者と担当医との関係が重要であることが示唆された。**結果の結びつきを加えて考察したほうが良いと思います。また全体的に文字数が多いので、スライドを増やしたらどうでしょう。**

孫他では「統合失調症」は「薬」との関係が強く「大腸がん」は「手術」との関係が強いという傾向にあったが、本研究では大腸がんにも男女の差がみられた。すなわち、男性は「手術」に関する言葉が多く、女性は「薬」に関する言葉が多かった。今後更なる分析が必要である。

(2) Seale C, Charteris-Black J, Ziebland S. (2006)との比較

Seale他の研究は、英国DIPExの前立腺がん男性と乳がん女性の比較であり、男性は疾患の知識など医療情報について多く述べ、女性は人間関係や情動に関しての言説が多かった。男性は病気の処置に関する単語が多く、女性は人間関係に関する単語が多いという先行研究(Gray et

【考察③】 看護教育的資源としてのJPOP-VOICEの意義

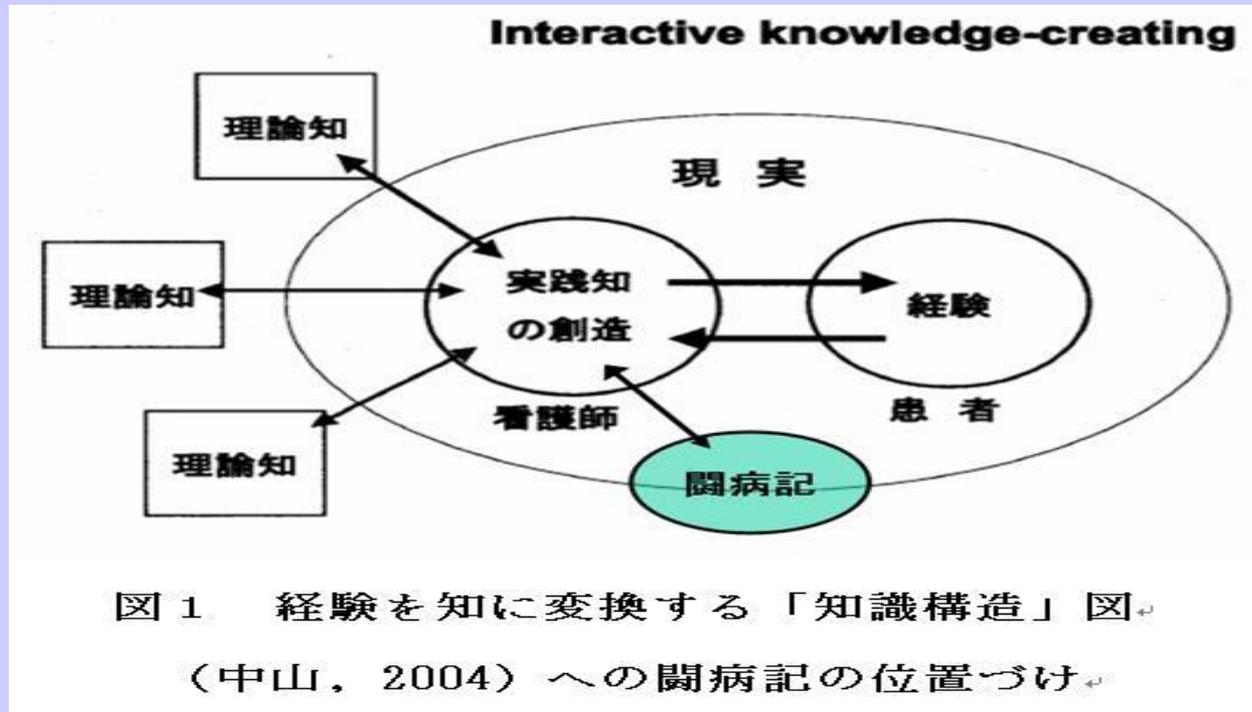
JPOP-VOICEのようなウェブサイトの役割

- (1) **患者**: 病気に対する不安を低減し、病気と向き合う勇気を得る。
- (2) **家族などの支援者**: 病気の情報を得ることができ、患者に対する共感的理解を得る。
- (3) **医療従事者**: 「病いの語り」(Kleinman, 1988)に触れることにより、患者の苦勞への共感的理解を得るため間接的経験を得る。
- (4) **看護学生**: 教育的活用が期待できる。疾患に対する「理論知」(中山, 2004)とともに、病いの患者体験の語りを間接的に経験できる。

●「健康と病いの語り」データベースDIPE_x等とともに、学生の教育に患者の視点を取り込むことにより、看護学生は患者の身体的な苦痛と精神的な不安や、生活的な問題などが理解でき、気づきが得られることが期待される。

●本研究から、看護学教育におけるナラティブ教材としてのウェブサイトの有効性が示唆された。

【考察④】 いたう・小平 (2010) の闘病記の位置づけ



中山(2004)の原図では、看護師と患者との相互作用の重要性を説明した。いたう、小平(2010)は、その中に闘病記を重要な情報源として位置づけた。ウェブサイトJPOP-VOICEのような体験者の動画も闘病記と同等の位置づけが可能である。さらに視聴覚的に生の表情や声に触れることができる特長をもつ。

ウェブサイトの闘病記は看護教育のナラティブ教材として活用できると考えられる。

【文献】いとうたけひこ・小平朋江（2010）マンガ教材『わが家の母はビョーキです』（中村ユキ）読了後の印象と感想のテキストマイニング 日本看護学教育学会第20回学術集会 講演集 p.285

・小平朋江・伊藤武彦（2009）ナラティブ教材としての闘病記：多様なメディアにおける精神障害者の語りの教育の活用、マクロ・カウンセリング研究、8：50-67、

小平朋江・いとうたけひこ（2010）マンガ教材『わが家の母はビョーキです』（中村ユキ）読了後の統合失調症に対する偏見の変化 日本看護学教育学会 第20回学術集会 講演集 p.285

・門林道子（2005）がん闘病記の変遷と「告知」 死生学年報2005 東洋英和女学院大学死生学研究所

Kleinman, A. (1988) : The illness narratives. 江口重幸, 五木田紳, 上野豪志, 訳(1996) : 病いの語り: 慢性の疾いをめぐる臨床人類学. 誠信書房

・中山 洋子（2004）看護の“知”の水脈を探る 聖路加看護学会誌 8(1), 44-49.

Seale C, Charteris-Black J, Ziebland S. (2006) Gender, cancer experience and internet use: a comparative keyword analysis of interviews and online cancer support groups. *Social Science and Medicine*. 62, 2577-2590.

・孫 波・いとうたけひこ・大高庸平・小平朋江（2010）ウェブサイトJPOP-VOICEにおける統合失調症の当事者の語りの特徴」心理教育・家族教室ネットワーク第13回研究集会(福岡大会)抄録集

・山内梨香（2008）がけっぷちナース：がんとともに生きる 飛鳥新社